幕末維新期の激動と高森町

【歴史編／第5章 近世、第6章 近現代】

熊本博物館学芸員（歴史）
木山 貴満

幕末期の高森と、「勤王派」野尻武右衛門維則

嘉永6年（1853）6月、ペリーの浦賀来航が日本国内に大きなインパクトを与えたことは、みなさんよくご存じのことと思います。条約締結をめぐって国内政治が動揺しはじめ、桜田門外の変で大老・井伊直弼が暗殺されるなど、江戸幕府の威信は次第に低下しました。文久期には、諸藩でいわゆる尊王攘夷運動が盛り上がることとなりました。

熊本の尊王攘夷運動で中心的役割を果たしたのが宮部鼎蔵ら勤王党の面々ですが、高森にも独自の存在感を示した人物がいるのをご存知でしょうか。その人物こそ、野尻武右衛門維則です。

武右衛門は宮部たち勤王党と連絡を取り合っていたほか、豊後岡藩の勤王派・小河一敏らとも親交をもっていました。武右衛門は阿蘇大宮司をリーダーとする、肥後・薩摩・岡三藩の連合策を考えていたと伝えられています。

武右衛門の勤王活動として注目されるのが、文久3年（1863）5月に京都守衛のため熊本から派遣された「御親兵」54人への参加です。藩の記録によると、勤王党の主要メンバーたちよりも、武右衛門の名前が上位に掲載されています。御親兵には武右衛門のほか、野尻手永の面々も数名選ばれているのも注目されるところです。高森地域の勤王派は、熊本のなかでも確かな存在感を示していたと考えられます。一時は京都で勢力をほこった勤王党ですが、「八月十八日の政変」で状況は一変。御親兵は解散となり、武右衛門も帰郷します。

以前の『高森町史』でも武右衛門は取りあげられていましたが、今回の町史では高森地域と幕末の世相のダイナミックな関連についてよりわかりやすく整理しています。

神官・安藤経俊と、石工・甲斐有雄の西南戦争日記

明治10年（1877）におこった西南戦争は、熊本県内を主要な戦場の一つとしました。阿蘇地域でも政府軍と西郷軍による戦闘が行われたため、高森地域で人的被害が出ています。こうしたなか、西南戦争に関する歴史記録として注目すべき資料が存在します。野尻川上社の神官などをつとめた安藤経俊の日記と、阿蘇原野への道標設置などで有名な石工・甲斐有雄（野尻尾下）の日記です。

安藤は西郷軍側に加勢して従軍する一方、甲斐は政府軍の軍夫として鹿児島城山の陥落までを見届けています。同郷の2人ですが、西南戦争では立場を全く異にしたといえるでしょう。高森出身の2人の日記を通して、それぞれの視点から西南戦争を追体験できるのは特筆すべきことです。

新しい町史では時系列にそって、2人の日記の要点をまとめて紹介しています。

ぜひ新しい町史を手に取っていただき、高森町域から見た激動の幕末維新を実感いただけますと幸いです。

戦争概略晴雨日誌
（熊本県博物館ネットワークセンター提供）

『高森町史』は教育委員会にて販売しております。
また、町民の皆様に広くご覧いただけるよう町内公民館及び集会所に1部ずつ配備するとともに高森町タブレット図書館での貸し出しも行っています。

自然編

文化・産業編

歴史編

■高森町史「自然編」「文化・産業編」「歴史編」はこちらのQRコードから閲覧可能です。
ID・パスワードをお持ちでない方、お忘れの方は下記担当までお問合せください。

■高森町史「自然編」「文化・産業編」「歴史編」を頒布しています。

高森町史「自然編」	A4判 上製本 フルカラー （3冊組） ケース入り	260ページ	3冊1組 **21,700円** （税込み）
高森町史「文化・産業編」		208ページ	
高森町史「歴史編」		292ページ	

町史購入をご希望の方は下記担当までお問い合わせください。

問 教育委員会事務局 社会教育係　☎０９６７－６２－０２２７